

























3. 【情報技術協定拡大交渉 (ITA Expansion, ITA II)】

2013年12月、ITA 拡大交渉は合意に達せず、2014年末まで継続になった。交渉のなかで中国の反対したのは、①141品目をセンシティブな品目として扱う。②そのうち、特に重要な59品目を自由化から完全に除外するなど。なかでも強く反対している品目はフラットパネル・ディスプレイ (FPD) である。

2015年7月の合意ではFPDが除外し、そのことに最後まで反対していた台湾も7月28日に合意した。

【参考資料等】

- 1) 日本電子情報技術協会 (JEITA) 「電子工業統計」
- 2) Apple Inc. “Apple’s Supplier List” (2014年版)

電子部品からみたエレクトロニクス産業の特徴

	エレクトロニクス産業	(参考) 自動車産業
産業の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォンなど世界大(地球大)で同時的な普及が進む</li> <li>・商品の多くは世界共通仕様である</li> <li>・他産業のIT化、ITサービスの活用で電子部品の需要が拡大している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイブリッド・カー、電池自動車、燃料電池車など、新車の技術開発競争が激しい</li> <li>・仕様に地域特性がある</li> </ul>
サプライチェーンと消費者との関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サプライチェーンの最終段階で完成した商品の購入</li> <li>・「モノ」「サービス主体」「ソフトウェア等」などの階層ごとに消費者が選択できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サプライチェーンの最終プロセスに消費者を位置づけ、消費者は最終組み立て後の商品を購入</li> </ul>
製品 (最終製品)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル変更等の商品のサイクルが短い</li> <li>・耐久消費財の電子機器は保守を必要としないものが多く、製品寿命は比較的短い</li> <li>・多くの商品にIT化が進みネットワーク接続できる機能をもつ傾向にある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発に要するリードタイムが長く、モデルチェンジは頻繁ではない</li> <li>・使用期間が長く耐久性が求められる、中古市場が発達している</li> <li>・安全性確保のために整備・保守を求めている</li> </ul>
部品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準化が進んでいる</li> <li>・技術革新と量産化で高機能・低価格が進む</li> <li>・「部品」と「完成品」の区別が明確ではない</li> <li>・「部品」であっても市場で流通し、取引されている</li> <li>・電子部品の集積度が高まり、小型化が進んでいる</li> <li>・専用部品を使わずに設計思想を変え、電子機器の機能のソフトウェアが進め標準仕様のマイクロプロセッサを使いソフトを書きかえることによる対応が進む。</li> <li>・電子化・IT化の進展で電気・電子機器産業以外の産業機器に電子部品の搭載が広がっている</li> <li>・高性能化・低価格化が進み、用途の拡大とともに生産量が急拡大</li> <li>・ソフトウェアの役割が大き</li> <li>・多くの部品は集中調達する機会が多い</li> <li>・リスク分散のために生産拠地の立地先の分散が重要との認識が広がる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エレクトロニクス製品に比べ部品点数が多い</li> <li>・部品の共通化が進められているが、車種ごとに異なる</li> <li>・市場で流通するものは少ない(アフターマーケットの存在)</li> <li>自動車以外の用途は乏しい</li> <li>電子部品の使用が広がる</li> <li>ソフトウェアの比重が高まっている</li> <li>・「ローカル・コンテンツ」</li> <li>・現地調達を高めるサプライチェーンが重要</li> </ul>
生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新技術を生かした新規参入がある</li> <li>・OEM、EMS(委託(受託)生産)等、多様な生産方法がある</li> <li>・独立した部品メーカーが多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規参入が容易ではない</li> <li>・完成車メーカーと部品メーカーが分かれている</li> <li>・OEM、委託生産は限定的で系列取引が主体</li> </ul>
貿易上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「情報技術協定」により、無税の品目が多い</li> <li>・FTAによる関税引き下げ効果は限定的</li> <li>・主要国が定めた環境規制等は、実質的にグローバルな規制になる</li> <li>・電子部品の多くは航空貨物が主体</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関税が高く輸入規制がある国が少なくない</li> <li>・国ごとに環境規制・安全基準等の規制がある</li> <li>・中古品の貿易が盛ん</li> <li>・自動車専用船など独自の輸送システムを早くから確立</li> </ul>

(注) 筆者作成